

県主導で茶専業農家の規模拡大を支援

相良村 菅野隆一さん

全国各地で遊休農地の拡大が懸念されているが、熊本県相良村では、熊本県農業公社の農地保有合理化事業の活用により、遊休荒廃化の恐れのある畑地約3.7ヘクタールが規模拡大農家に集積され、見事な優良農地に蘇った。

不在地主を含む農地所有者25名から、売買事業で一括取得、茶業農家の後継者に売り渡し規模拡大を支援した。売買事業で中間保有、複数筆を合筆したうえで担い手に譲渡した本事例は、農地保有合理化事業でしか出来ない専門的な機能であり、担い手農家から喜ばれている。

公社が48筆を一括取得、6筆に合筆

県農業公社の農地保有合理化事業（売買）が実施されたのは、相良村川辺にある一団の約3.7ヘクタール、48筆の畑地で、一部原野を含む遊休化した不耕作地。30%程度は農地（さつまいも、麦、縮みホウレンソウ、遊休栗園）として利用されていたが、遊休化が懸念されていた。

平成19年3月に基盤強化法に基づく農地利用集積計画で、10アール当たり30万円、地権者は25名から約1,000万円を一括取得し、不整形な48筆（20筆、16筆、9筆をそれぞれ1筆に合筆登記）を合筆、6筆に整理して、一時貸し付けを行ったのち、平成20年5月に売り渡しを完了した。

本事例に特徴的なことは、次に示すように県農業公社が主導的に活動したことだ。

農地保有合理化事業により規模拡大したのは、相良村川辺の茶専業経営者で認定農業者の菅野（すがの）隆一さん（42歳）。

菅野さんの祖父は、満州からの引き揚げ者で、ここ相良村に昭和20年代前半に戦後開拓として入植。りんご、酪農、茶などに挑戦。気候風土から適作物の茶を拡大した。

隆一さんは、球磨農業高校を経て静岡県立農業大学茶業科を卒業し、新規学卒就農者として約4ヘクタール規模の父親の経営する茶農家に後継者として就農した。

相良村には50～60戸の茶農家がある。10ヘクタール規模の大規模茶園農家は15戸程度だという。拡大前の経営規模は約8ヘクタール（植栽面積は6ヘクタール）。今回、熊本県農業公社の世話で買い入れた約4ヘクタールを加えると、地域の大規模茶園経営農家の仲間入りとなる。

拡大地と権利調整

規模拡大はあまり考えていなかったが、現経営農地は面積はそこそこあるものの、立地条件が悪く（狭小で歪細・飛び地・傾斜地）、安全・安心な機械作業をやる上で問題があった。まとまった、平坦な農地がほしかったのは事実だという。今回取得した農地に白羽の矢を立てたのは、16年暮れに団地の中の村道（ふるさと農道）が整備されたことが契機となったという。



家族経営でストレスを感じない茶専業経営を目指す菅野隆一さん

まず最初に父親（隆邦さん）にこの土地がほしいと相談した。父親は「たぶん無理だろう。1ヘクタールまともれば良い方だろう。」との消極意見だったが、再々家族で話し合い、将来も見据えて、工場の拡大と合わせて農地の購入を決意した。

次に相良村の農業委員会の事務局長に相談。農業委員会では、地権者の一覧名簿を作成して検討してくれた。その名簿を基に、初めは自分一人で地権者個々を説得して回ろうと考えた。

地権者へ具体的な説得行動を起す前に、県農業公社の高木辰三業務課長を熊本市に訪ね、権利調整の相談をした。高木課長は「こういう権利調整をするのが、県公社本来の仕事（合理化事業）だ」と快く調査を約束、抵当権や納税猶予関係の調査を実施してくれた。

地権者への説得活動は16年から17年にかけて一人で始めた。しかし、途中でうわさも広がり、18年には建設業者に売ってしまった人も出た。

県公社の高木課長は、個別説得では時間もかかり売買契約に持ち込むのは難しいと判断。相良村、村農業委員会とも相談し、平成18年9月に地権者全員に、村構造改善センターに集ってもらい、農地保有合理化事業の趣旨と菅野さんへの協力を高木課長自ら呼びかけた。隆一さんも農業・茶業に対する思い、経営に対する思いを全員に話した。

この場で、県公社から購入価額を一律10アール30万円と提示。何人かから値上げの要望も出たが、高木課長からの「この地区の農地の有効活用と、菅野さんの規模拡大への協力とお願い」の強い説得により、提示額で参加者が合意しまとまった。「地権者には、年金暮らしの人や不在地主の方も何人かいました。高齢の人達や兼業の人達が、菅野さんの地域に対する思いや農業に対する熱意に感動して、協力してくれたんだと思いますね」と高木課長は話していた。

公社から一時貸付の間に整地作業を自力（家族）で行った。リース等によるブルドーザー、ユンボ等機械作業に約4ヶ月の日時を費やし、2月から「さえみどり」の植栽を開始し無事終えた。茶の新植の場合、収穫できるまで4～5年かかり、6～7年目から本格化する。樹体は25年となっているが30年以上は大丈夫だという。



「さえみどり」の植栽を終え、優良な農地に蘇った購入地

将来とも茶専門の家族経営

規模拡大について「自分では本当に良かったと思っています。急激な拡大なので一抹の不安もあります。県公社の高木課長がいなければ、話はまとまらなかったと思います。地権者説明会を開いて頂いたのが一番ありがたかった」と菅野さんはその喜びを語る。更に「契約から登記事務まで何から何まで、県公社でやってくれるとは知らなかった。無駄なお金を使わずに済んだ。拡大希望者で県公社の存在を知らない人がいるとすれば気の毒ですね」とも話す。

最後に、菅野さんには「農業は自然との付き合い、生きるための基本、人間らしく生きられるのが農業だと思っています。家族経営でストレスを感じないで、のびのびとやりたい」と笑顔で語ってくれた。

県主導で茶専門農家の規模拡大を支援
(相良村 菅野隆一さん)

(農地ふぁーむらんど No45 平成20年7月号掲載)